

平成 24 年 3 月 30 日

国際石油開発帝石株式会社

ブラジル、フラージ鉱区近傍における油漏洩事故について [第十報] (お知らせ)

国際石油開発帝石株式会社は、関連会社のインペックス北カンポス沖石油(株)を通じて出資するブラジル現地法人 FJPL 社 (Frade Japão Petróleo Limitada) により、ブラジル連邦共和国カンポス沖合のフラージ鉱区において石油の生産および開発作業を進めております。同鉱区近傍の海上における油漏洩事故につきまして、プロジェクトオペレーターのシェブロン社は 3 月 29 日に以下のような趣旨のコメントを現地の主要な新聞に掲載しました。

- ・ シェブロン社の関連会社は 1915 年からブラジルで活動しており、その歴史とブラジルとの関係を重視してきた。また環境への影響を与えかねないいかなる事故に関してもシェブロン社は真剣に取り組んでおり、ブラジルの人々や環境を保護することを最優先としている。
- ・ シェブロン社が昨年 (2011 (平成 23) 年) 11 月に確認した油漏洩事故は、法令や業界基準に則った承認済みの緊急対応プランの適用により、発見から 4 日間で原因となった坑井のコントロールを行い、その坑井の廃坑 (井戸にセメントを充満し井戸を封じる作業) に成功した。現在も油のしみ出し状況のモニタリングを続けているが、油のしみ出しはその封じ込め作業も功を奏してほぼ収束しており、油の海岸への漂着や海中生物への影響は確認されていない。事故により誰一人も被害を受けておらず、人体に影響があるといった技術的データも確認されていない。
- ・ シェブロン社は、本年 (2012 (平成 24) 年) 3 月に別の場所からの小規模な新たな油のしみ出しを確認した。シェブロン社はすぐに油漏れを封じる措置をとるとともに、ブラジル政府関係当局へ通報した。今回確認された油の漏洩量は約 1 バレルに過ぎない。またシェブロン社とパートナー各社は、地域一帯における地質的特性を確認し原因究明のための包括的な技術的スタディーを行う間の予防的措置としてフラージ鉱区の原油生産活動を一時停止した。シェブロン社と政府機関が状況を全て分析し、安全が確認された段階で原油生産再開に必要な承認手続きを進めていく予定である。
- ・ 最近になりシェブロン社とその従業員は、2011 (平成 23) 年 11 月の油漏洩事故に関連し刑事告訴を受けた。本刑事告訴は根拠のないものであり、すべての客観的事実が明らかになれば、シェブロン社とその従業員は本油漏洩事故に対して適切で責任ある対応を取ったことが示されるものと確信している。シェブロン社は会社の信用とその従業員を守ると同時にブラジル政府関係当局やパートナー各社と密に連携していく所存であり、シェブロン社のブラジルを含む世界的事業活動における専門家と経営資源を本事故の解決にあてている。
- ・ パートナーシップも非常に重要と考えており、ブラジル関係当局、パートナー各社やス

テークホルダーと緊密に対応していく。また、ブラジルのエネルギー分野での安全で飛躍的な発展に貢献するため、ブラジル関係官庁や科学機関と本事故から学んだことや情報については透明性を持って共有している。

- ・ シェブロン社は世界的な行動原理である誠実、信頼およびパートナーシップをもって本事故の解決にあたっていく。シェブロン社はブラジルのエネルギー資源の今日そして未来の開発のために責任を持ってサポートしていくことを約束している。

本油漏洩事故に関連する必要な諸手続きについては、FJPL 社としてもオペレーターであるシェブロン社を中心にパートナーのペトロブラスとともに適切に対処してまいります。

同社からの更新情報が入りましたら、逐次お知らせいたします。

「補足・関連情報」

ブラジル連邦共和国 フラージ鉱区 権益比率：

- ・ シェブロン（オペレーター 本社：米国） 51.7%
- ・ ペトロブラス（ブラジル国営石油会社） 30%
- ・ Frade Japão Petróleo Limitada (FJPL) ※18.3%

※当社、双日株式会社および独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構（JOGMEC）が設立したインペックス北カンポス沖石油株式会社のブラジル現地法人子会社

以上

【本件に関する問い合わせ】

国際石油開発帝石株式会社 広報・IR ユニット 03-5572-0233